

ごみ問題解決策は
富士山の一元管理

NPO理事訴え

富士山の保全活動に
取り組むNPO法人・

グラウンドワーク三島の渡辺豊博専務理事(都留文科大教授、富士山学)の講演会が東京都三鷹市内で開かれた。世界文化遺産登録後も産業廃棄物が放置されている現状などについて語り、市民約70人が熱心に耳を傾けた。

渡辺氏は、富士山の世界自然遺産登録(世界複合遺産に昇格)を目指し、超党派の国会議員による勉強会の開催を働きかけている。

昇格への取り組みについて、渡辺氏は「(自然遺産に)登録されなかった一番の理由はごみ問題と言われているが、実は、権利者の多い富士山を二元管理する態勢がないことが影響した。だから、富士山周辺のごみはいまだに放置されている」と指摘。
そのうえで「国による一元管理が実現すれば、ごみ問題も解決に向かう。国民運動を起こしたい」と持論を展開した。【野島康祐】



富士山の自然破壊の現状を説明する渡辺教授